

10月15日(月)

ひ ざ を か が め て

聖書朗読 マタイ 27:27～40

それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、
ピリピ 2:10

彼ら——キリストを囲んでいた兵士たちは、ひざをかがめてイエスを拝むふりをしました。冷やかしのまなざしとあざけりの言葉を口に。イエスの衣服をくじ引きで分け、茨のとげのある冠を頭に押しつけ、賞賛の言葉を言い、王とあがめ奉ったりすることは格好の余興だったのです。かたくなな心であるのに、ひざをかがめる姿勢。目は開いているのに本物の王への盲目。

ひざをかがめて私たちは主の下に集まります。私たちの心に焼きついたイエス様の軌跡。「いったいほかのだれがそこまで盲目に、意地悪になるのでしょうか」。裁判の悲劇の場面に集中してしまうことは自然なことですが、イエス様は私たちのために苦しみぬいてくださった、その感謝の気持ちがさらに私たちの意識を上へと導きます。私たちはよみがえった勝利の救い主、キリストを礼拝するために呼ばれています。主の前にひざをかがめて私たちは声を上げます。

王冠で飾られていたその頭にはいま
王家の栄光の冠が輝いています。
いと高き天にある右の座におられるその方。
王の王、主の主、全世界の永遠の光。

——トマス・ケリー

聖歌 179

祈り 親愛なる主よ。あなたの救いの計画を成すために捧げられたイエス・キリストの苦しみを私たちが忘れることのないようにしてください。私たちが日々の生活においてますますあなたの勝利の力に頼ることができますように。

イエス様の御名において祈ります。アーメン。

エルマー・プラウト

カリフォルニア州 ウッドランド

今日の力

2012年10月15日～10月21日

翻訳 鵜沢未央
(大みかキリストの教会)

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月16日(火)

醜い若木

聖書朗読 マルコ 5:35～43

イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。
ヨハネ 11:25

ドイツの田舎にあるヘイデルベルク城には一本の木がありました。お城と、お城を囲む街の景色は本当に美しいのですが、その木はちょっと変わっていました。景観デザイナーが見たら、見るに耐えないものといわれるかもしれません。その木は、地面からあるところまで、本来あるべき半分の幹と根っこしかありません。それは雷に打たれた木のようにてっぺんから下まで裂かれて、その片方は干からびています。その中心も同じようになっています。

ではなぜ、それは伐られずにあるのでしょうか？ その片割れからいくつもの双葉が芽生えており、それぞれの双葉の中心からまた新しい葉が生えてきているのです。死んだようだったものから——生きているなんて到底信じられないような状態でもちゃんと生きていて新しい命を育てているのです。

ヤイロの家で、少女が死んで寝かされていたときにイエス様はおっしゃいました。「この子は死んでいるのではない、眠っているのだ」。周りの人々は笑いました。イエス様はその手を取り、彼女に「起き上がれ」と命令したのでした。

私たちの周りで起こっていることはどんなことですか？ 絶望、失望、敗北、中毒症、老化、死？ イエス様が「死ではない、眠っているのだ」とおっしゃったときに疑ってはいけません。「起き上がちなさい」と私たちを引き上げてくださるからです。冒頭の木のように！

聖歌 176

祈り お父様。私の世界をあなたの眼を通してみるができるように助けてください。絶望や死を人間の視点ではなく、希望と命をあなたの目を通して見させてください。

イエス様のお名前を通して祈ります。アーメン。

ナンシー・ベイカー
テキサス州 アビリン

10月17日(水)

子どものように

聖書朗読 マルコ 10:13～16

イエスにさわっていただくとして、人々が子どもたちを、みもとに連れて来た
マルコ 10:13

オックスフォード大学、発達精神科医のオリビア・ペトロビッチ博士は、最近の研究で「人間は神の存在を信じるようにできている」と語っています。彼女の研究によると「子どもが何かを信じる力は先天的なものであり、無神論は後天的なものである」と。特に子どもは人間として元来あるプログラムにより、信じるのが容易にできると言うのです。しかし成長するにつれて周りの状況や視線が影響を持つようになってしまいます。悲惨な事件や失望、心配事が優先されるようになります。疑い深かったり皮肉な態度を取ったり、何でも信じられなくなってしまうのです。

イエス様はこの現象をご存知だったに違いありません。『まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこにはいることはできません。』マルコ 10章15節でこう語られたときには、キリストは恐らく、このことを指しているのかもしれませんが。イエス様は私たちに「真実を信じたいという自分の気持ちを信頼しなさい」と語っているのかも知れません。子どものように神を信頼する。あなたが子どもの頃にしていた様にです。そのように、あなたは神様に作られているのです。

「信じること」とは、いろいろな人が試みているように懸命な、絶え間ない探求心によって生まれるものではない。それは神様にゆだねること、身の回りに起こる些細なことなどにとらわれず、神様の究極の平安に魂をおくことである。

——作者不詳

讃美歌 461

祈り お父様。あなたを信じます。不信仰な私を助けてください。疑う心をお許しください。私たちを子どものように、あなたの子どもにしてください。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ペリー・マーティン
ルイジアナ州 シェルベポート

10月18日(木)

イエス様にしっかりつかまる

聖書朗読 マルコ 10:17～22

私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。

ピリピ 3:12

ここには余るほどあります。イエス様のすばらしい「神らしさ」は示され、イエス様の愛は満ちあふれています。しかし、この栄光に満ちたイエス様の真実は聖書を離れるとイエス様のことを表すものではなくなくなってしまいます。

それはある若い男性、善良で、ただ善良なだけではない、すばらしく善良な、たとえて言うならば父親が自分の娘の結婚相手になってほしいと望むような男性。履歴書も文句なし、若く、経済力もあり、人々に尊敬され、知性にあふれ、そして何より100%律法に忠実。しかし、イエス様のすべてを見通すまなざしでその人を見ると欠陥が現れてしまいます。

ほんとうに、(律法に) 忠実であることは十分ですか？ それはそれで立派ですよ。しかし、デボーションは律法を守り行う行為よりも深いものがあります。それはすべてを放棄する行為のことであり、実はそれ——富や物質に、その男性は固執していたのです。この悲しい物語のエンディングから受け取るメッセージは、男性がいろいろなものを後生大切に、手を離せずにいたという、痛々しい結果です。

もう両手で他のものを大切に握っているのに、握っているものを離してイエス様の手を取ることは難しいことです。イエス様は常に語っていらっしゃったはず。手にあるものすべてを手放し、私の手を取りなさい、と。

讃美歌 333

祈り 親愛なるお父様。イエス様の手を握ることよりもすばらしいことはほかにはないということをよく私が分かるようにしてください。その真実が今日、私たちの言葉や人生を通して証されますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ベン・メレネス

テキサス州 アマリロ

10月19日(金)

熟考を要する

聖書朗読 マルコ 12:38～44

あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか。——あなたがたがそれに不適格であれば別です。——

Ⅱコリント 13:5

私たちのうちの何人かは今回のイエス様が神殿を訪問した聖書箇所を何十回も読んでいます。そのため、私たちは「分かった。パリサイ人たちは悪人で、金持ちの無頓着、そしてこの未亡人はよい女性だ」と簡単に結論づけてしまいがちです。熟考もせず、一步離れて人の霊性を振り分けることは簡単なことです。私たちはパリサイ人でも、お金持ちでも、また未亡人でもありませんが、イエス様は私たちに語りかけていらっしゃいます。

イエス様の観察は罪——傲慢、偽善、おごり、目的のない捧げ物——を表面化させています。これは時代を問わず男性にも女性にもある罪です。

私たちの欲望が邪悪であると、サタンは私たちの霊性をだめにしてパリサイ人のように見栄を飾るような行為をするように仕向けることでしょう。私たちが自分自身に焦点を当てると周りの人の必要が見えなくなり、主を否定してしまいます。イエス様はそこには厳しい罰がある、とおっしゃっています。

金持ちと未亡人のたとえは鋭いコントラストと逆説を提示します。金持ちはたくさんの中から一部のお金を差し出しました。物理的な貧しさはあっても霊的に富んでいた未亡人は持てるものすべてを捧げました。彼女は「神の前に富むもの」(ルカ12:21)です。もしあなたが私がその場にいたとしたら、イエス様はどうご覧になったでしょう？ では今日イエス様は、私たちをどうご覧になっているのでしょうか？

讃美歌 第二編 188

祈り 親愛なる神様。あなたのお言葉によって私たちが自分の罪を知り、悔い改めることがイエス・キリスト様の恵みによってできることをありがとうございます。私たちを、すべてを捧げた未亡人のようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジャニス・グリーンリーフ

アラバマ州 ハンツヴィル

10月20日（土）

あなたにこの話をしたいのです

聖書朗読 マルコ 16:9～20

それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」
マルコ 16:15

このすばらしい賛美の歌詞を吟味してください。

語りつげばや 主なるイエスを。
その御栄と そのめぐみを。
わがたましいを 満たすものは、
たになきこと さとり得たり。
語りつげばや 世を去る日まで。
語りつげばや イエスの愛を。

——キャサリン・ハンキー（聖歌 525）

私はこの歌詞を読むたびに恵みと喜びの言葉に感動します。

私たちは、新しいペットのことや、最近見つけたお気に入りのレストランのことは、友人にもよく話します。しかし、人生の悩みや深い問題に関しては沈黙してしまう、言葉が出ない、いうことがあります。いったいどうしてでしょう。羞恥心？ 理解されないことへの恐怖？ でも、神様のすばらしい愛は私たちを助けてくださいます。神様は私たちに機会を与えてくださるだけでなく、話す勇気も与えてくださいます。もしかしたら、友人が突然あなたの信仰について質問してくるかもしれません。また別の友人が、どこかでイエス様とそのあわれみについて話すきっかけになるような問題にぶつかっているかもしれません。

この賛美の心からの喜びを十分に味わって、証の機会と勇気をいただくチャンスの祈りとしましょう。私たちには語り継がれてきたすばらしい物語があるのでから。

聖歌 525

祈り 御在天の父よ。イエス様とイエス様の愛についてもっと分かち合いたい、語りたい者となれるよう、お助けください。

尊い御子のお名前により祈ります。アーメン。

ユーゲニア・カイザー

バージニア州 アーリントン

10月21日（日）

サマリヤ人の心

聖書朗読 ルカ 10:25～37

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。 ローマ 12:1

銀行に、長い行列ができていました。最初の二人はとても早く来ていたので待つ必要がありませんでした。ところが突然、あるおばあさんがパニックを起こしてやってきました。「ねえ、私は急いでいるのよ。誰か助けてくださらない？ 次のバスに乗らなきゃいけないのよ！」。その場の人全員が彼女を見ました。銀行員は「列にお並びください」といいました。

列の二番目にいた男性が「奥さん、私の場所にお入りください」と言って自分は列の最後に並んだのです！ 女性は順番を譲ってくれた男性に何度も感謝の言葉をかけました。見知らぬ人であっても他人を助ける人がいるのはなぜでしょうか？ 他人を助けたいという心が人々の心に存在しているのはなぜでしょう？

今日のたとえば私たちの理解を深めてくれるかもしれません。この箇所からある説教で、人間には3種類あることが分かるという説明を聞いたことがあります。第一は自分がほしいと思えばあなたのものは私のもの、と信じる強盗。第二は私のものは私のもので、ほかの人の必要には興味がありません」と信じる祭司やレビ人。そして第三は「あなたが必要としているならば、私のものはあなたのもの」と信じる善いサマリヤ人です。

私が欲するのは第三のサマリヤ人の姿勢です。神様の思いと愛の表現に一致しています。

聖歌 330

祈り 親愛なる主、父よ。あなたの愛を私たちにを見せてくださり、私たちを氣にかけてくださっていることを感謝いたします。どうか私たちを教え、力を吹き込み、特に助けを必要としている隣人を愛することができるようにしてください。

イエス様の御名前により祈ります。アーメン。

S・ビル・ジメネツ

カリフォルニア州 サンフランシスコ